

令和4年2月16日

県政記者クラブ各位

福島県原子力安全対策課

福島第一原子力発電所の現地調査結果等について

本日、陸側遮水壁の冷媒（ブライン）漏えいについて、現地調査を実施するとともに東京電力に対して申し入れをいたしましたので、下記のとおり結果をお知らせします。なお、写真の提供が必要な場合は、担当者まで御連絡願います。

記

1 現地調査

(1) 日時

令和4年2月16日(水) 10:30～11:00

(2) 場所

福島第一原子力発電所 陸側遮水壁（ブライン漏えい箇所(6BLK-H1)）

(3) 調査者（福島県）

原子力安全対策課檜葉町駐在 2名

(4) 調査結果

2月15日に発生した陸側遮水壁におけるブラインが漏えいした事案について、東京電力による原因調査が行われていることから、現場の状況を確認しました。

現場では、ブラインが漏れた配管接続部周辺の確認が行われており、今回の事象は配管（母管(直径450mm)）の接続部からブラインが漏れ出したものと想定しているとの説明を受けました。

また、漏えい箇所は昨日中に隔離しており、原因特定とともに今後の対応を検討するとの説明を受けました。



漏えい箇所を確認する駐在職員（手前）



漏えい箇所の周辺の状況

2 申し入れ

- (1) 日 時 令和4年2月16日(水) 13時30分～
- (2) 場 所 県庁北庁舎 2階 小会議室
- (3) 東 電 側 福島第一廃炉推進カンパニー 田南バイスプレジデント
福島復興本社 松井福島広報部長 他1名
- (4) 県 側 原子力安全対策課長 他1名
- (5) 申入内容

2月15日に確認された陸側遮水壁の送水配管フランジ部からの冷媒(ブライン)漏えいについて、1月16日にも凍結管継手部からの漏えいが確認されており、県では1月20日に、同様の事象が発生しないよう、他の凍結管の点検強化など水平展開を図るよう求めたところであるが、再び類似の事象が発生しており、対策が急がれる。

陸側遮水壁は原子炉建屋等への地下水流入抑制のための重要な設備であり、ALPS処理水に関する政府の基本方針においても、汚染水発生量を可能な限り減少させる取組の重要性が示されているところである。

東京電力においては、ブライン漏えいトラブルが連続していることを踏まえ、トラブルの未然防止の観点に立って、より一層の安全管理の徹底を図るよう、次のとおり申し入れる。

- ブライン漏えいの原因を究明し、再発防止対策を検討すること。
- 陸側遮水壁の凍結ラインについては、運転開始から約6年が経過し、凍結状態の変化や設備の経年劣化と思われるトラブルが続いていることから、適切な点検や維持管理の在り方を検討すること。

